ALPA Japan NEWS
日 乗 連 ニ ュ ー ス
www.alpajapan.org
Date 2019.7.3 No. 42 – 31

発行:ALPA Japan/日本乗員組合連絡会議
企画会議
〒144-0043
東京都大田区羽田 5－11－4
フェニックスビル
TEL.03-5705-2770 FAX.03-5705-3274
E-mail:office30@alpajapan.org

# 2019 年　IFALPA 総会出席報告（1）

## 1.　はじめに

2019 年 4 月 25 日～29 日の 5 日間、第 74 回 IFALPA 総会が VC（Vereinigung Cockpit =ドイツ乗員組合）設立 50 周年に合わせてベルリンで開催されました。世界 42 カ国以上から総勢 500 名程度の参加者が集い、日本からは ALPA Japan 議長を含む 5 名が出席しました。

今総会のテーマは「Building Bridges（架け橋を築く）」と称されています。これは第二次世界大戦後ベルリンが東西に分断されていた時代に、航空機を利用して多くの物資を西側ベルリンに届けた Berlin Air Lift（ベルリン大空輸）が、ドイツでは「ベルリンの空の架け橋」と呼ばれているところが由来となっています。このテーマは、IFALPA 活動が世界の架け橋となる願いも込められています。

総会初日には、キースピーカーとして、ドイツ当局の航空担当事務次官である Ingmar Streese 氏（写真下左：IFALPA の Abel 議長と Streese 氏）と、ルフトハンザグループ CEO の Carsten Spohr 氏（写真下右）によるスピーチを行われました。

## 2.　GPS (Global Pilots Symposium)

ASAP (Association of Star Alliance Pilots)、OCCC (One world Cockpit Crew Coalition)、SPA (Sky Team Pilot Association)という 3 つのパイロットグループと、 IFALPA が主催となって開催された Global Pilots Symposium では、Guest Speaker による講演やパネルディスカッションが行われました。

**Keynote Speaker**

IAG（International Airlines Group）CEO の Willie Walsh 氏が壇上にて講話を行いました。「リーダーシップについて最も重要なことは、自らを尋ね、尋ねられ続け、自分自身に快適なスタイルを開発すること、またそこから本当の自分を見つめ直すことである。偉大な指導者とそうでない指導者を見てきたが、重要なことは、盗めるものは盗み、これらから学ぶことである。他の人を真似しようとすると、必ずしもうまくいくとは限らない」と出席者に訴えました。

**TNA（Trans-National Airlines ）Pilot Groups Panel**

Captain Martin Stork が司会を務め、パネリストとして Captain Yngve Carlsen、Captain Patrick Barbary、Captain Enda Ryan が出席しました。ここでは世界中のパイロットグループを取り巻く労働組合の構造や、パイロット同士が対立することを防止する方策、そして多国籍に及んで変化していく企業構造における課題等に焦点を当てたパネルディスカッションが行われました。

パイロットグループは今後数年間におけるグループ内の変化を正しく理解していく必要があり、多国籍化にも対応していかなければなりません。その為にはあらゆるメンバーと議論を重ね、正しく協調していかなければ団結心は生まれません。若手を含め、各国の全てのパイロットを巻き込むような枠組みを構築すること、そして人件費削減を目的とした多国籍企業のビジネスモデルに歯止めをかけ、組合全体で賃金アップを図っていく必要があります。

**Pilot Unity in an Era of TNA（Trans-National Airlines）**

Bristol 大学の Turnbull 教授より、ヨーロッパ内の多国籍エアラインとパイロット組合のあり方について講義がありました。現在 EU では TNA が増大し続けています。その中で、パイロット達は各国で維持してきた法律や習慣が侵食され始めています。現在、TNA との間には多くの協定が締結されてきてはいるものの十分とはいえません。今後のパイロットによる集団行動として、現状の不足点や不満を会社に主張すること、また EU 政界の有識者とも連携して問題解決に取り組むことが重要であるとのことでした。

**Leadership についてのパネルディスカッション**

3 人のパネリストと司会者が、それぞれの所属組合で変革を経験し、組合員を纏めあげた方々とリーダーシップについて討論しました。

デルタ：会社との交渉が一度目は却下されたが、二度目は成功させました。方法として、中執は組合員に耳を傾けることにより投票率が上がり、戦略を練り直すことができた上、投票のおかげで訴えていた問題に対して会社も交渉に合意する姿勢を見せることができました。

ルフトハンザ：賃金の見直しが必要でしたが、組合内での団結が失われていました。この状況を脱却するため、ルフトハンザグループとして、グループ内のすべての会社に所属する組合員で統一した戦略

を作りました。会社間でのお互いの消極的な感情を抑え、団結を取り戻しました。

ライアンエアー：裁判沙汰にもなった 2005 年の賃金交渉により、中執は組合員からの信頼を失いアイルランドの会社の労働基準への不満も高まりました。その為、戦略の方法を変更し、以前は法律系の問題ばかりに焦点をあて弁護士に頼っていたところを方向転換し、以前よりも組織的な問題や労働問題に焦点をあてることで最悪の状態から脱却できました。リーダーとしての初期の判断の過ちなどを認め、組合員に対して正直に向き合うことが大切だと語りました。

**Pilot Unity**

三者を招き、パイロットとして交渉ごとを行うにあたり、強い団結力を得ることの重要性に関してパネルディスカッションが行われました。近年、SNS の存在により希薄化する集団の関係性を指摘し、直接会ってコミュニケーションをとる重要性を訴えました。パイロットという団体はチームであり、家族であり、互いに尊重の念を持ち、理解し合うことで信頼関係を構築し、共に目的を達成することで個人の利益を享受します。また、集団を率いる上でのリーダーの重要性にも言及しました。

**Great Leadership: Staying in Control**

Mark Hamilin 教授による、人と人とのコミュニケーションにおける橋の構築についてのスピーチが行われました。Hamilin 氏は、重要な 3 要素として、以下のことを挙げました。

1. 思考や感覚に連結する質問をすること
2. その返答に対する耳の傾け方
3. 相手に共感すること

また、集団において個人が周囲から受ける精神的影響、及び情報の欠如が人々の思考に与える影響を心理学的アプローチから説明しました。

## 3. 委員会報告

**PGA（Professional Government Affairs、産業問題）Committee：**

前回のシカゴ会議で、今後の委員会の方向性について議論を行いました。各地域における特性の諸問題があり、法律や民族文化が異なることが理由により、世界各地から集合し会議全体で議論を行なって進めていくことは現実的に困難です。その為、問題を抱えている地域へのサポートは、その地域を管轄する EVP・RVP（地域担当役員）と連携しながら進めていくことが重要であると判断し、年一回の全体会議を基本に、サポートを必要としている地域へは、少人数のワーキンググループを派遣していくことを決定しました。

**HUPER（Human Performance）Committee：**

関連する議題として IFALPA のポリシー変更が提案されました。「糖尿病とインスリン投与」に関し

て、条件付きで身体検査適合とする案が提出され、インスリンによる血糖値の適正なコントロールができれば適合という内容になっています。これは、2018 年の 2 回の HUPER 委員会で継続して議論されてきたことであり、カナダやイギリスでの適合事例を踏まえ、各国でも求める声が大きかったという背景もあります。

**ADO（Aircraft Design and Operation）Committee：**

昨年（2018 年）米国連邦航空局（FAA）が貨物機における 1 名乗務を可能とする今後の方向性を打ち出したことを受け、ADO Committee では「2 名未満での民間航空機運航の可能性」について議論してきました。その結果、「2 名未満での民間航空機運航は旅客機・貨物機を問わず、常時操縦席に着席して運航に臨むことが必要不可欠である」という結論に至りました。これは民間航空機の安全を著しく脅かすものとして、今回のベルリン総会では「2 名未満での運航に関する声明」を全会一致で採択しました。内容は以下の通りです。

**2 名未満での運航に関する IFALPA ベルリン総会声明**

「IFALPA2019 総会は、現状の航空産業の安全性の向上に寄与するいかなる発展をも支持します。我々が今まで築き上げた安全文化と歴史は、休息を十分とれている、資格のある、訓練を十分受けた状態の 2 名のパイロットが基礎となっています。将来の安全性の進化には、安全上、保安上の観点からこの 2 名編成の基準を低下させないことが不可欠です。IFALPA として 2 名未満の運航の導入については明確なリスクと安全性の低下を引き起こすと考えます。業界としてこの航空輸送の安全性の根幹に関わる基準の変更を考える際には、これらのリスクと安全性の低下について、厳格に評価することが必要不可欠です。」

**IFALPA Conference Statements on Reduced Crew Operations**

**The 2019 IFALPA Conference fully supports any developments that improve the current safety standards in commercial air transport. Our enviable safety record and culture is based upon two properly rested, fully qualified, and well-trained pilots. It is imperative that any future evolution of this benchmark improves upon it and does not degrade the safety and security level in any area.**

**It is the Federation's position that because reduced crew operations carry significant additional risks over existing dual pilot operations, they will result in a serious reduction in flight safety. It is essential to fully address these risks and safety shortfalls before the industry accepts changes to the standards which have built the safest transportation system in history.**

（その 2 に続く）